

おらほの文化財



馬場目字中村住人 佐藤 一 義

中村集落には、幾つかの文化遺産があり、そのうちの4種類が町の文化財に指定されている。

872年、中村集落東部の大吹沢高台に開基された『安養寺』に集散する密教僧や修験者たちは、集落住民から和やかに迎えられ、相互に高め合うような交流を続けていたと考えられる。



写真①

時代が明治に代わって、神道国教化を目指した一派が仏教への攻撃を強め、廃仏毀釈運動が全国に広まった。安養寺もその攻撃を受けて廃寺にされて消え去り、修験道は禁止されてしまった。廃寺になったことに伴い、密教の重要な法具である両界曼荼羅(写真①)は、特に親しく交流していた素封家が依頼されて保管し、現在に至っている。また、元々は『薬師山』頂上の小詞に祀られていて、後に安養寺境内の『薬師堂』に祀られた本尊薬師如来石像(写真②)も、同じ素封家に保管されて現在に至っている。

安養寺で活動する修験者たちは、集落住民との交流の一つとして、集落内の有志に番楽を教え、十五夜には舞台を設けて舞を披露することを通例としていた。これに用いた番楽の面(写真③)も同じ素封家が保管を依頼されて現在に至っている。

安養寺跡地の南東部高台に『毘沙門天大吹沢神社』が建っている。ここに祀られている本尊

は『毘沙門天』(写真④)と『吉祥天』(写真⑤)で、どちらも仏教界の天部であるから、ここを神社と呼称するのは正しくない。神社とは「神道の神をまつところ」であるから、ここは毘沙門神社ではなく、『毘沙門堂』と呼称するのが正しい。廃仏毀釈の勢いに押されて、無理やり神社と名付けてしまったもので、同様に無理を通した例が他にもある。



写真②

写真③

毘沙門、吉祥両天は、顕教よりは密教の世界で扱われることが多いところから、堂の隣にあった安養寺に集散する行者たちが勧請を行い、堂の本尊として祀ったと考えられる。

何代かにわたって祭りを引き継いできた講中代表が死去してしまった後は祭りが止まっているが、その二年ほど後で、二体ともに町の文化財に指定されている。



写真④

写真⑤

以上の町指定文化財四種類は、安養寺で作られたり、或いはそこに集散する修験者が関わって作りだしたりしている。また、集落内二か所にある庚申碑群の中に、『青面金剛』や梵字が刻まれていて、安養寺が関わった痕跡が明らかな庚申碑が四体建っている。